

安行小の環境学習・活動の紹介

ホタル再生プロジェクト

菊次 哲也

前号ではアカガエル再生プロジェクトについて書きましたが、今号ではホタル再生プロジェクトについて紹介します。

今年、七月十四日に六年生が総合的な学習の時間の成果として「ライトミニュージアム2017 光り輝く星のように翔ばたけホタルたち」というテーマでホタル観賞会を開きました。



安行小学校では総合的な学習の時間に三年生は「安行原の蛇造り」と地域学習を取り上げています。五年生になると「米づくり」、六年生では「安行の歴史・文化」と発展していきます。この地域学習の発展、まとめとして六年生はホタル飼育に取り組みました。

ホタル飼育といつても簡単なことはありません。ホタルを育てるためには餌となるタニシが必要です。そのタニシを育てるために安行小学校の学年には5年生とエコクラブが育てている田んぼがあります。田んぼで育った

タニシを理科室前の水槽で飼育して、六年生のホタル実行委員会が週に一、三回、そのタニシを割って餌にしました。

学校で育てているホタルはヘイケボタルです。ゲンジボタルは水質がよくないと育ちませんが、ヘイケボタルは水質の変化に強いです。

学校のホタルはどこから来たかというと、「ふるさとの森」（安行中下）を守り育てている「みどりの街づくり協議会」（一輪草祭りで有名です）で長くホタル飼育にあたってきた安行北谷在住の田中忠さんが育てて持ってきてくれました。その田中さんはちょうど十五年前に見沼でつかまえた数匹のホタルをもとにホタル飼育を続けてこられました。今では北谷の自宅で何千匹ものホタルを飼育されています。六年生は田中さんの指導を受けながらホタル飼育に成功しました。

ホタル飼育を通して、子どもたちは「どうしてホタルがへったのか」という疑問から、田んぼの減少、川の水の汚れについて知り、安行の自然をどう守り育てていけばよいのか考えてきました。

夏の夜のホタルの美しい光に目を輝かせる子どもたちの目は、安行の未来を見つめる目でもありました。